



百年の彩りを
次の100年の
輝きへ

八王子市まち・ひと・しごと創生 総合戦略 (平成28年度の実績)



平成29年9月

八王子市

目 次

第 1	「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要……………	1
第 2	八王子市の人口の現状……………	3
第 3	「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」平成 28 年度の実績……	5
	政策軸① ひとづくり	
	政策軸② しごとづくり	
	政策軸③ まちづくり	
	政策軸④ 本市の魅力の発信	
	総括表	

第1 「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要

1. 総合戦略の位置づけ

総合戦略では、まず「人口ビジョン」として、八王子市の人口動態や産業構造等の分析、学生や若年層に対するアンケート、市政世論調査から本市の置かれている現状を分析し、目指すべき将来展望を示している。そのうえで、目指すべき将来展望の実現を目指し、八王子ビジョン 2022 及びアクションプランの施策展開を前提に、人口減少問題と向き合うために必要な施策を、政策軸ごとにパッケージ化した。

なお、総合戦略策定にあたっては、産業界、八王子市、大学、金融機関、労働者、メディア（産官学金労言）に公募市民を加えた、「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会」を設置し、広く意見を聴取した。

2. 総合戦略の構成

(1) 目指すべき将来の方向

- ①平成 72 年に本市人口の 8 割の維持を目標とする。
- ②人口構造（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の安定化を図る。
- ③平成 52 年までに出生率 1.8（国民希望出生率）の達成を目指す。
- ④平成 32 年までに若年層の流出を 4 分の 1 に抑制することを目指す。

(2) 基本方針

①まち・ひと・しごとの好循環

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を創るという好循環を生み出すこと、それを支えるための「まちづくり」を進める。

②交流人口の増加

交流人口を増加させることにより、本市の魅力を感じ、ライフステージの様々な局面で本市に居住するという選択肢を考えてもらえる取組を進める。

(3) 4つの政策軸

- ①ひとづくり 市民力の源泉である市民活動の支援や、将来を担う子どもたちがいきいきと成長し、就労・結婚・出産・子育ての希望が叶うまちの実現に資する施策をパッケージ化
- ②しごとづくり 雇用の場を創出するという視点に立ち、地域産業の支援、企業立地の促進、新規創業の支援に取り組むとともに、学生の地元企業への就労支援策などをパッケージ化
- ③まちづくり 地域に賑わいを創出するという視点に立ち、本市の「顔」である中心市街地の活性化や人口減少社会を想定した空き家対策や沿道集落の活性化などをパッケージ化
- ④本市の魅力の発信 交流人口の増加に直結する、本市の特性を活かした地域ブランドの創出や観光産業の振興、効果的な魅力の発信といった施策をパッケージ化

※ その他、行政裁量の拡大に向けた取組として、特区（構造改革特区、国家戦略特区）制度の活用、地方分権の更なる推進、都市間連携の推進に取り組む。

3. 計画期間

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間。

4. マネジメントサイクル

総合戦略では、政策軸ごとに政策パッケージを示し、それぞれ重要業績評価指標 (Key Performance Indicator : KPI) を設定し、これをもとに毎年検証し、改善する PDCA サイクルを確立し、進行管理を行っていく。

5. 平成 28 年度の実施状況

本報告書では、八王子市の人口の現状や、市政世論調査の分析、総合戦略に掲げた政策軸ごとの平成 28 年度の数値目標及び KPI の実績値を示し、分析・評価を行った。また、平成 29 年 8 月 7 日に「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会」を開催し、産業界、大学、金融機関、労働者、公募市民という様々な立場からの意見を聴取した。

この取り組みを踏まえ、引き続き本総合戦略の着実な推進を図っていく。

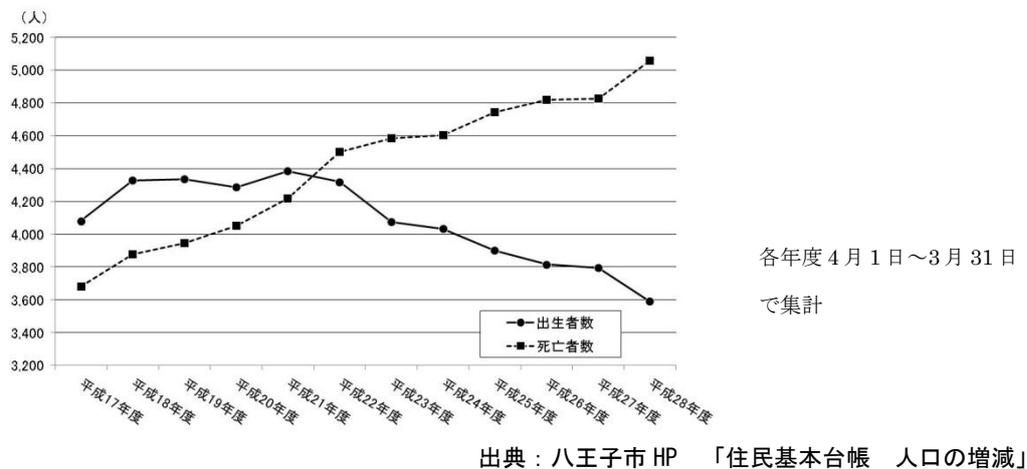
第2 八王子市の人口の現状

1. 住民基本台帳に基づく人口の増減

(1) 自然動態

八王子市では、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」へと転じて以降、死亡者数と出生者数の差は年々大きくなっており、平成28年度には出生者数が3,589人、死亡者数が5,057人で、1,468人の自然減となった(図表1)。

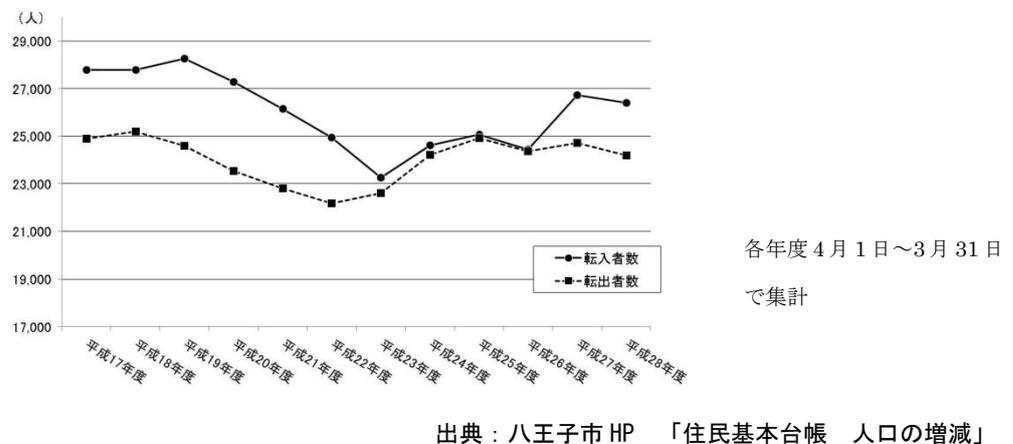
【図表1】出生者数・死亡者数の推移



(2) 社会動態

八王子市の社会動態として、平成22年度までは転入者数が転出者数を大幅に上回っていたが、平成23年度にその差が大きく減少し、平成26年度には転入者数と転出者数がほぼ均衡していた。しかし、平成27年度から転入者数が転出者数を上回り、平成28年度は2,222人の社会増があった。(図表2)。

【図表2】転入者数・転出者数の推移



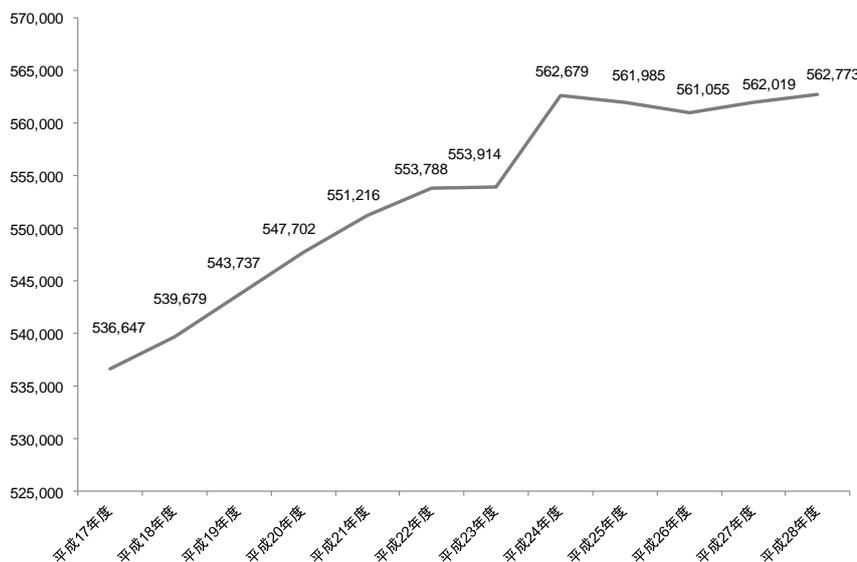
※平成24年7月9日に住民基本台帳法の一部改正が行われ、住民基本台帳人口に外国人住民も含まれることになったが、人口増減の経年比較をするために、平成24年度の転入者数から、増加となった外国人住民の人口(8,932人)を除いている。

2. 人口の推移

(1) 住民基本台帳人口

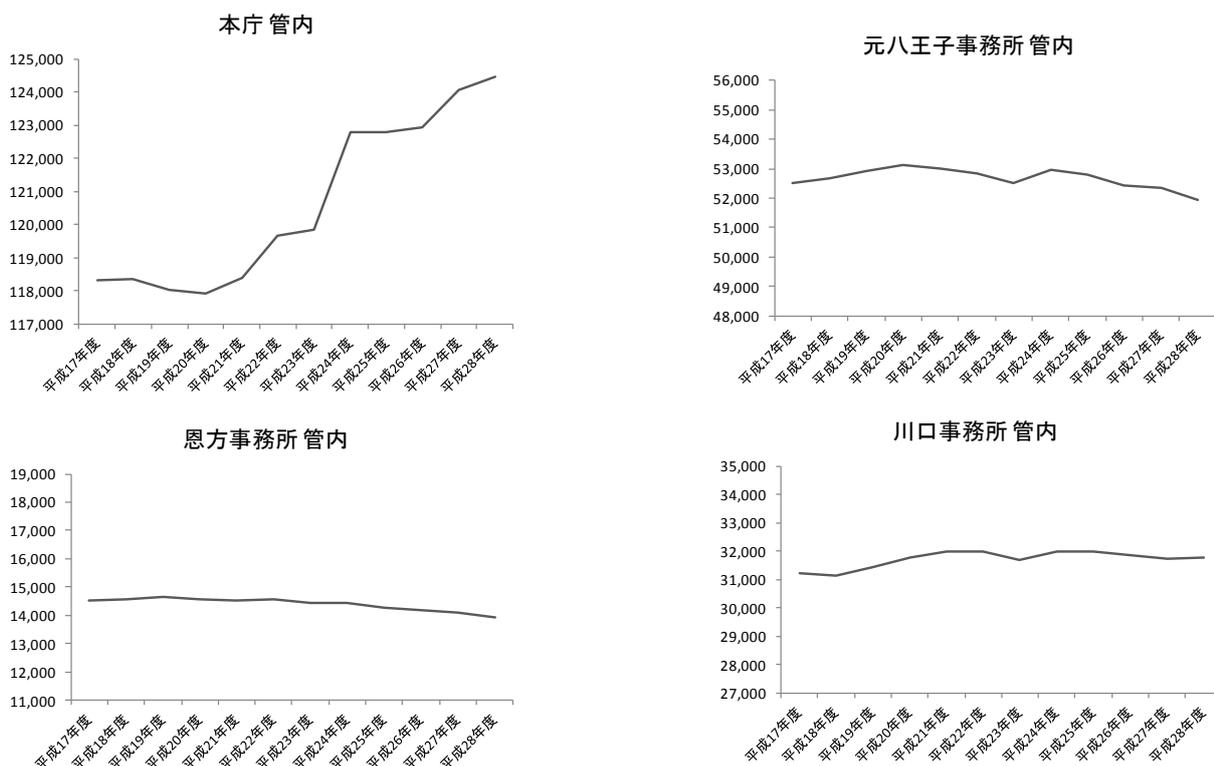
住民基本台帳における本市の総人口は平成 23 年度まで増加が続き、平成 24 年度から減少傾向となっていたが、平成 26 年度からは微増で推移している（図表 3）。なお、市内各地域（各事務所管内）の人口の推移を参考に示す（図表 4）。各年度 3 月 31 日時点。

【図表 3】市内全体の人口の推移（住民基本台帳）

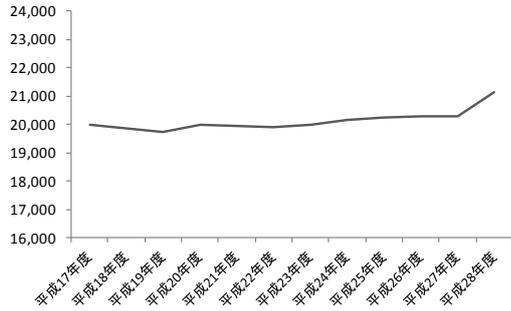


※平成 24 年度の増加は、平成 24 年 7 月 9 日に住民基本台帳法の一部改正が行われ、住民基本台帳人口に外国人住民も含まれることになったことが影響している。

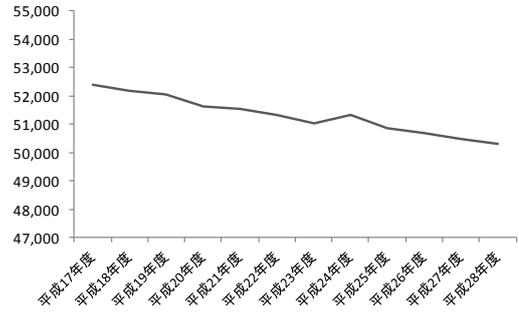
【図表 4】市内各地域の人口の推移（住民基本台帳）



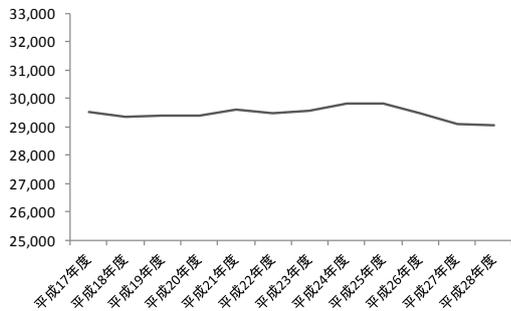
浅川事務所管内



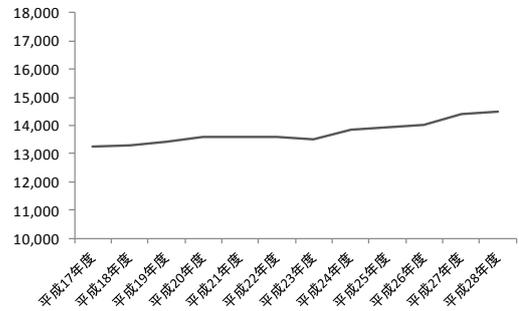
横山事務所管内



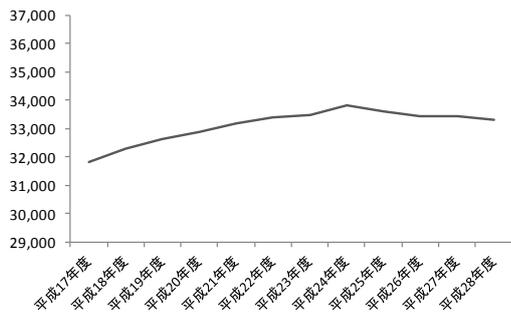
館事務所管内



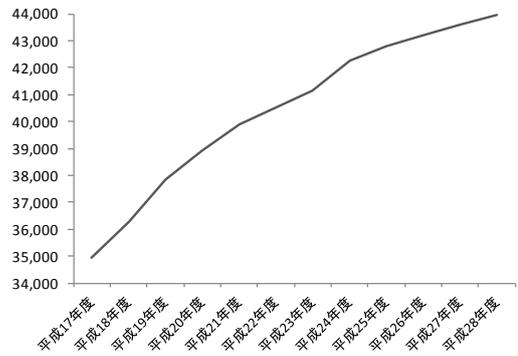
加住事務所管内



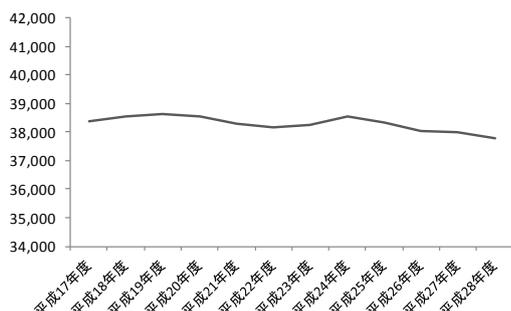
石川事務所管内



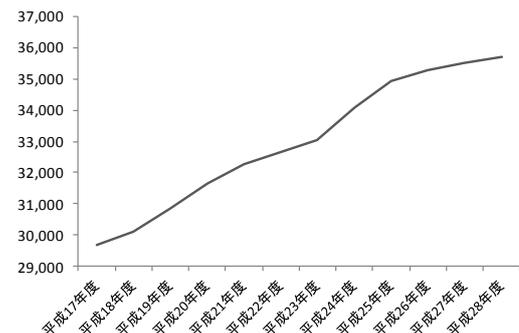
由井事務所管内

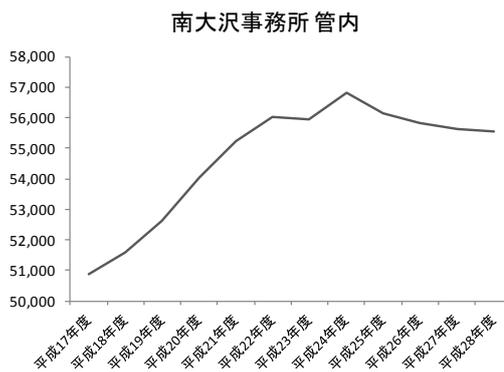
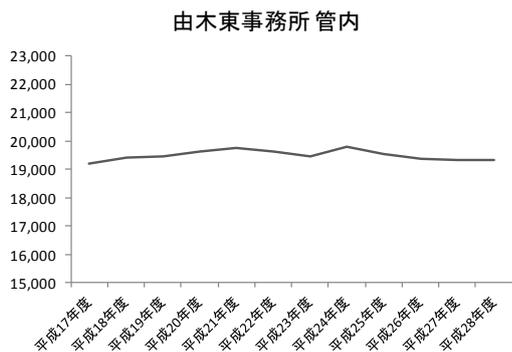


北野事務所管内



由木事務所管内

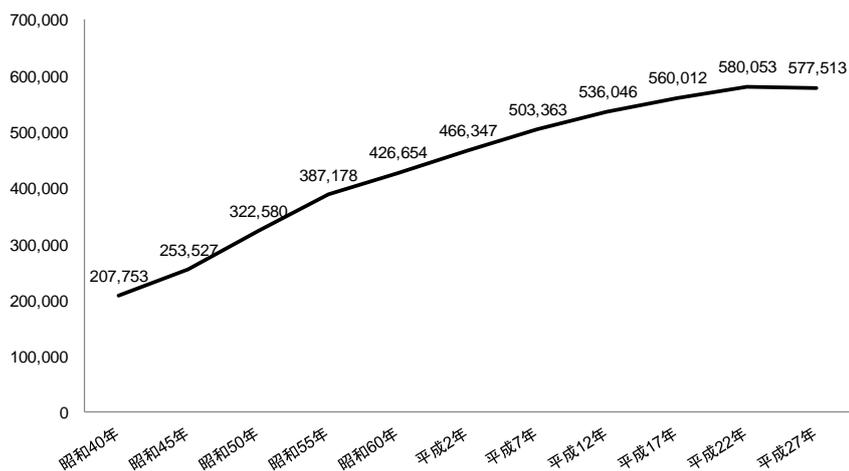




(2) 国勢調査人口

国勢調査における八王子市の総人口は平成22年まで増加が続いていたが、平成27年国勢調査（確報値）では577,513人と平成22年と比較して2,540人減少した（図表5）。

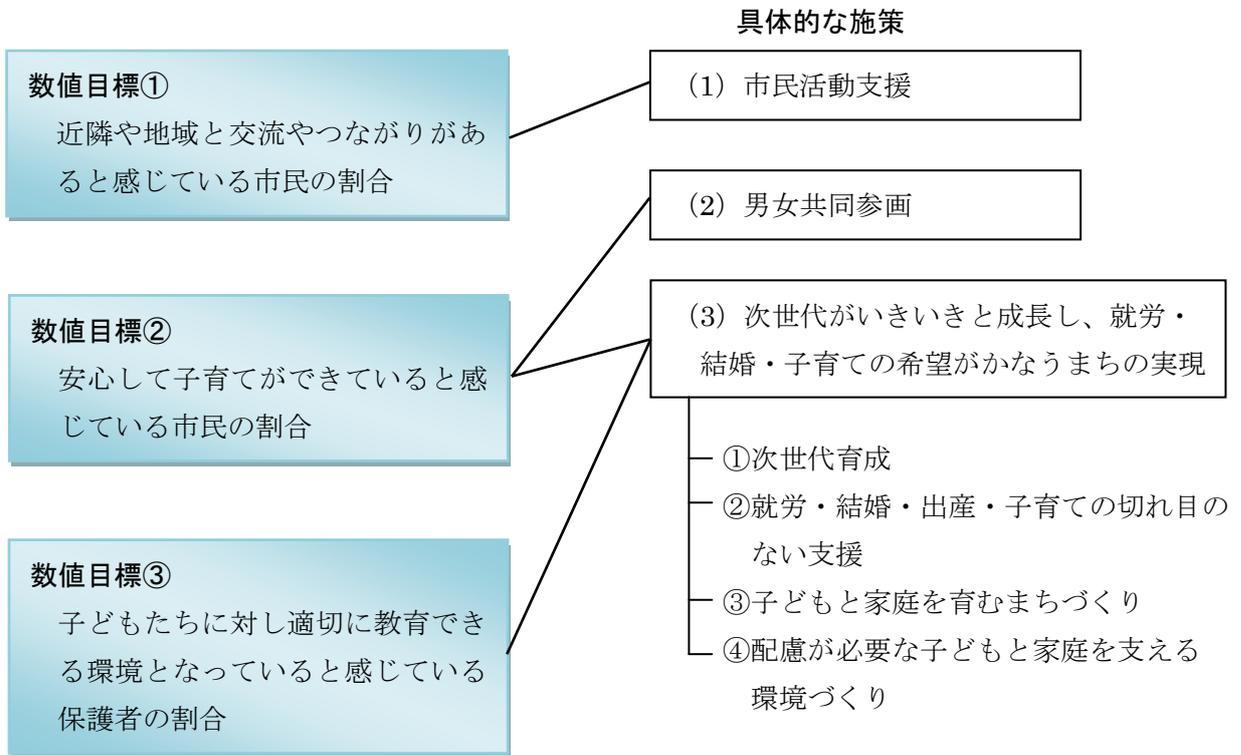
【図表5】人口の推移（国勢調査）



出典：国勢調査をもとに作成

【政策軸① ひとづくり】

1. 数値目標と施策の位置づけ



2. 基本的方向

- ・地域づくりの源泉は市民力であるとの認識のもと、市民力が最大限に発揮されるよう、町会・自治会、NPOなど様々な市民活動を支援するとともに、学園都市の特徴を活かし、地域活動への学生の参画を促し、地域に対する愛着の醸成を図る。
- ・男女が互いに尊重し合い、個性と能力を発揮できる社会の実現、及び男女がともに多様な生き方を選択でき、仕事も生活も充実できるようワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。
- ・少子化の傾向を克服するために、次世代がいきいきと成長する「子どもにやさしいまち」、そして就労・結婚・出産・子育ての希望がかなう「子育てしやすいまち」の実現とともに、子育てプロモーションを展開し、社会全体で子育てを支えるまちを目指す。

3. 政策軸1「ひとづくり」 平成28年度実績値の分析・評価

数値目標	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
近隣や地域と交流やつながりがあると感じている市民の割合	48.9%	64.0%	47.7%	46.2%	△
[実績値の根拠] 市政世論調査問19「あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。」のうち、「たまに立ち話をする程度」以上の回答を集計。					
安心して子育てができていると感じている市民の割合	39.6%	48.0%	33.9%	47.1%	○
[実績値の根拠] 市政世論調査問23「あなたは、子育てをしている方が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていると思いますか。」において、20～64歳で子どもがいる回答者のうち、「どちらかといえばそう思う」以上の回答を集計。					
子どもたちに対し適切に教育できる環境となっていると感じている保護者の割合	79.8%	82.0%	80.1%	80.8%	○
[実績値の根拠] 28年度学校評価における保護者向けアンケートのうち、「学級経営：子供の学級は落ち着いて学習できる雰囲気である。」の回答を集計。					

《重要業績評価指標(KPI)》

(1) 市民活動支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
町会・自治会加入率	60.8%	67.6%	60.1%	58.9%	△
[実績値の根拠] 住民基本台帳における総世帯数を分母に、市内各町会・自治会から報告された加入世帯数を分子として算出。 加入世帯数154,323 / 住基上総世帯数261,685					
市民協働でまちづくりをすすめていると感じている市民の割合	50.3%	62.6%	51.5%	56.9%	○
[実績値の根拠] 市政世論調査問24「あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。」のうち、「どちらかといえばそう思う」以上の回答を集計。					
大学と市との連携・協力事業数	203件	272件	244件	250件	○
[実績値の出典] 大学等との連携・協力事業調査より。					

28年度実績値に対する分析・評価	今後(29年度)の取組状況
<p>価値観の多様化、近隣や地域への意識の希薄化などにより、町会・自治会への加入率が低下傾向にある。 また地域で活動する市民活動団体の情報の入手方法の周知が行き届いていない。</p>	<p>町会自治会連合会と連携し、町会への更なる加入促進に努める。 また、地域の情報を入手できる「はちコミねっと」(28年度開設)の更なる利用促進に向けPRを行う。</p>
<p>これまで以上に全国的な待機児童問題や子どもの貧困率などに注目が集まる一方で、本市における待機児童対策、医療費助成充実、妊婦面談開始など、子ども・子育て支援の充実した施策・取組に一定の評価があった。</p>	<p>保育施設、多様な保育事業、中学生と赤ちゃんのふれあい体験などの拡充を進め、かつ、新たに子どもの貧困対策や子育てコールセンター(仮称)開設などにも取り組み、引き続き安心して子育てできる環境づくりを進める。</p>
<p>教員の指導力向上のための研修や学校に対する人的支援を継続的に行ってきたことなどから、27年度実績値から好意的な回答がやや増加した。</p>	<p>引き続き、教員の指導力向上のための研修や学校に対する人的支援など継続的に行っていく。</p>

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
<p>価値観の多様化や近隣関係の希薄化などにより、町会・自治会への加入率が低下傾向にある。</p>	<p>町会自治会連合会と連携し、八王子いちょうまつりで町会加入促進についての啓発活動を行った。 このほか、「町会自治会運営ハンドブック(改訂版)」を発行し、町会・自治会新任役員の負担を軽減するため、同ハンドブックを研修資料とした「新任町会・自治会長及び役員研修会」を町会・自治会連合会と協働で開催した。</p>	<p>町会加入促進について、引き続き町会自治会連合会と連携して啓発活動を行うとともに、町会の先進的な取組事例を他の町会に紹介するなど情報共有を図る。</p>
<p>地域の情報を市民や団体が自ら発信できるサイトを立ち上げたことや、パブリックコメントなどの市の取組が評価されてきたことにより、数値が上昇した。</p>	<p>28年度に市民や団体自らが発信できるウェブサイト「はちコミねっと」を開設し、登録団体への操作説明会を実施した。 また、市民活動団体を支援する「ゆめおりファンド」において、物の支援に加え、人財支援を始めるなど市民活動団体に対する支援の充実を図った。</p>	<p>市民活動支援センターと連携して、団体及び一般市民向けに「はちコミねっと」の利用促進PRを行なうなど、利用団体の増加や更なる活用に向けた取組を行う。</p>
<p>市制100周年に関するプレ事業や都市緑化フェアの各エリア企画などに関連して、包括連携協定締結校を中心に連携事業を行った。 また、新規に小中学校との連携を進めたことにより、実績値が増加した。</p>	<p>新たに5校と包括連携協定を締結し、協定校(10校)を中心に、市内小中学校との連携事業19件のほか、市制100周年や都市緑化フェアに関連した連携事業9件を実施した。</p>	<p>引き続き包括連携協定締結校との連携を進めるとともに、29年度に策定した「はちおうじ学園都市ビジョン」に基づき、大学との更なる連携を図る。</p>

(2)男女共同参画

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現している市民の割合	35.9%	38.5%	39.8%	39.3%	◎
[実績値の根拠] 市政世論調査問42「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)についておたずねします。あなたの生活の中での、『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人の生活』(地域活動・学習・趣味等)の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。」において、「あなたの望む優先度」と「実際の優先度」が一致している回答者の割合を算出。					

(3)次世代がいきいきと成長し、就労・結婚・出産・子育ての希望がかなうまちの実現

①次世代育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
赤ちゃんふれあい事業を実施する中学校数	—	38校	—	10校	△
[実績値の根拠] 市が本事業を委託発注した学校数					
放課後子ども総合プラン一体型実施校数	30校	43校	31校	35校	○
[実績値の根拠] 放課後子ども教室実施校のうち、学童保育所が学校に隣接している、もしくは学校敷地内にあり、かつ自由遊び以外に学習プログラムを実施している学校の合計数。					
八王子若者サポートステーション進路決定者数	82件	100件	125件	141件	◎
[実績値の内訳] 正社員34、契約社員・嘱託19、パート・アルバイト64、派遣社員16、職業訓練6、進学1、起業・自営1					

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
28年度実績数値は、27年度と比較し僅かに減少したが、ワークライフバランスを推進するための講座の実施やホームページ等による情報提供並びに学習支援・求職支援のための託児サービスを継続実施していることにより、目標値は達成しており、市民意識の中には浸透している。	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に規定された市町村推進計画として、「男女が共に生きるまち八王子プラン(第3次)一部改定版(女性活躍推進計画)」を策定・公表した。 ワーク・ライフ・バランスを推進するための講座(20講座1,060名参加)及び学習支援・求職支援のための託児サービス(1,066名利用)を実施し、意識の啓発に取り組んだ。	引き続きワークライフバランスを推進するための講座の実施やホームページ等による情報提供並びに学習支援・求職支援のための託児サービス等を実施する。

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
28年度はスタートの年として、10校で実施した。 (中学校38校での実施拡大に向けて、毎年実施校を増やしていく予定である。)	これまで数校の中学校が独自に行ってきた赤ちゃんや妊婦とのふれあい体験や命の授業について、市の事業として位置付け、その初年度として10校で実施し、実施していない中学校に対するモデルとなった。	29年度は25校で実施予定である。
学校、地域、学童保育所担当所管との連携を図ったことにより、放課後子ども総合プラン一体型実施校数が31校から35校に増加した。	実施校数が4校増加したことから、学童保育所通所児を含めたすべての登録児童が、地域のひととのふれあいや活動プログラムに参加した。 また、28年度は放課後子ども教室を61校で実施し、新規開設は2校にとどまったものの、未実施校での開設に向けて、学校や地域で働きかけを行った。 このほか、特に待機児童が多い学校においては、週5日実施校を5校増やし18校とするとともに、一部の学校において三季休業中も開催し、待機児対策を強化した。	引き続き学校、地域、学童保育所担当所管との連携を強化し、「一体型の学童保育所・放課後子ども教室」の推進を図るとともに、児童が放課後に様々な体験活動に参加できるよう、活動プログラムを充実していく。
就労を目指す若者のニーズにあった支援が、若者の進路決定に結びついている。	本人・保護者に対する相談支援、就職活動セミナー・ビジネスマナー・パソコン講座等セミナー及び3泊4日の合宿形式による「ハウスクリーニング・調理基礎技術取得講座」などを実施した。 また、児童館のあり方検討(若者支援及び中高生の居場所づくり)を進めるとともに、サポートステーション利用者の職場実習の受入れを行った。 特に若年無業者就労促進事業においては、新たに模擬店の企画・運営による就労トレーニングや地域における青少年健全育成団体とのネットワークづくりを開始し、市制100周年記念事業「子どもフェスティバル」やあったかホールにおけるイベントなどにも参加した。	これまでの支援メニューをさらに充実させる。 具体的には、サポートステーションにおける若者・企業交流会を開催したり、同事業の対象者には該当しない(一歩手前の)層や就労することに困難を抱えた女性への支援を実施したり、新たな取組みを展開していく。

②就労・結婚・出産・子育ての切れ目のない支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
はちおうじ就職ナビ掲載の中小企業等に就職した若者への奨励金交付認定者数	-	総計300人	89人	総計167人 (28年度78人)	○
[実績値の根拠] 実績値を集計。					
妊娠期の面談率	9.2%	13.2%	13.0%	66.1%	◎
[実績値の根拠] 保健福祉センター等で受理した妊娠届出数を分母に、実施した妊婦面談数を分子として算出。 妊婦面談数2,439／妊娠届出数3,692					
ファミリー・サポート・センター年間活動件数	6,469件	8,206件	5,545件	5,525件	△
[実績値の出典] 実績値を集計。					
子育てひろばの設置数	38か所	55か所	47か所	48か所	○
[実績値の内訳] 親子ふれあい広場6か所、親子つどいの広場5か所、児童館10か所、保育園27か所					
保育所等待機児童数	144人	0人	139人	107人	△
[実績値の根拠] 申込児童数11,541名のうち11,434名が保育施設等を利用する等しており、待機児童数は107名となる。					
学童保育所待機児童数	327人	0人	370人	283人	△
[実績値の根拠] 第2希望入所を含めて、5,909名の児童が学童保育所に入所承認・在籍しているが、入所定員に達している一部の学童保育所において、待機児童が発生している。					

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
奨励金交付認定者数は27年度より減少しているが、周知活動等を積極的に行った結果、目標値に向けて順調に推移している。	Webサイト「はちおうじ就職ナビ」を活用して市内企業の魅力を発信するため、企業単独ではサイトの作成が困難な企業に対し、掲載支援事業を実施した。また、面接会やセミナー等に参加した企業に対して「はちおうじ就職ナビ」を紹介し、新規開拓を図った。	引き続き、はちおうじ就職ナビ及び奨励金制度の周知を図り、企業の人材確保につなげる。
事業初年度(28年度)は、妊婦面談率66.1%(妊娠届出数3,692件のうち妊婦面談数は2,439件)であり、27年度の13.0%に比べ飛躍的に向上した。	28年度より、妊娠期からの切れ目のない支援として八王子版ネウボラをスタートし、すべての妊婦との面談を目指して相談支援員を各館2名配置し相談体制の充実を図った。面談を利用した方には多摩産材を使用した木のおもちゃなどを育児パッケージ「はち★ベビギフト」として贈呈し、また産婦人科など医療機関の事業周知の協力や土曜の面談実施も面談率の向上につながった。	妊娠期からの早期介入・支援が重要であるため、引き続き事業の周知を図りながら、3保健福祉センターで妊婦面談を実施する。また、未利用者に利用勧奨を実施し、面談率の向上を図る。
毎月の説明会や保育施設でのチラシ配布等で周知をしたが、提供会員登録数が伸び悩んだため、依頼会員と日程等が十分に調整できず、活動件数が減少した。	28年度より民生委員会議や公立保育園園長会議での提供会員への登録説明を行っている。なお、平成29年3月末現在、提供会員数639名に対し、依頼会員数は2,359名である。	引き続き、毎月の説明会等での周知に努め、提供会員数の増加を図る。
親子つどいの広場を受託している事業者に働きかけを行っているが、市内に空白地域が存在している現状である。	専門スタッフによる相談や講座を実施し、また子育て仲間の交流の場を提供することにより、子育ての孤立化を防止し、児童虐待の予防や子育ての負担軽減を図った。	今後も空白地域に広場設置を検討する。
民間保育所及び地域型保育事業の施設整備等を行ったことにより、待機児童数を減らすことができた。	認可保育所7園(分園設置2園、増改築等4園、認可化移行1園)、認定こども園1園(改修)、事業所内保育施設4園(新設3園、改修1園)の施設整備を実施し、平成29年4月1日の保育定員を前年より152人増の11,474人とした。特に、待機児童の多い0～2歳児の保育定員を113名増員した。	民間保育所及び地域型保育事業の施設整備等を行い、引き続き定員増を図る。
数年来待機児童が発生していた地域で、施設の増設や拡充を行い、待機児童数を減らすことができた。	施設の増設等により定員を356人増やし、待機児童の解消に努めた。 <増設した学童保育所> 千人町第3(定員60人)・七国小第3(定員40人)・散田小第3(定員70人) <拡充し定員数を見直した学童保育所> 長沼(定員76人→100人)・高倉小(定員69人→100人)・東浅川小(定員69人→100人)・由木東(定員86人→120人)・横川(定員79人→120人)・大和田小(定員80人→105人) また、新たな事業として、学童保育所に入所できず待機登録となった児童を対象に、小学校の特別教室等を放課後の居場所として7か所確保・提供し、児童の安全確保を図った。	平成29年7月15日に第一小学童保育所第2クラブ(定員36人)を増設する。また、居場所対策事業として、待機児の放課後の居場所を5か所(片倉台小、第十小、いずみの森小、第四小、第一小)で実施する。

③子どもと家庭を育むまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
「はち☆ベビ」登録者数の割合	8.8%	60%	28.4%	38.1%	○
	[実績値の根拠] 住民基本台帳によって推計した妊婦及び0～2歳児の市内全体数を分母に、全登録者のうち妊婦及び0～2歳児の数を分子として算出。 妊婦+0～2歳児の登録者数5,975/市内全体数15,700				
子育て応援団Beeネット登録者数	440人	516人	444人	492人	○
	[実績値の出典] こども育成計画における取り組み状況等一覧。				

④配慮が必要な子どもと家庭を支える環境づくり

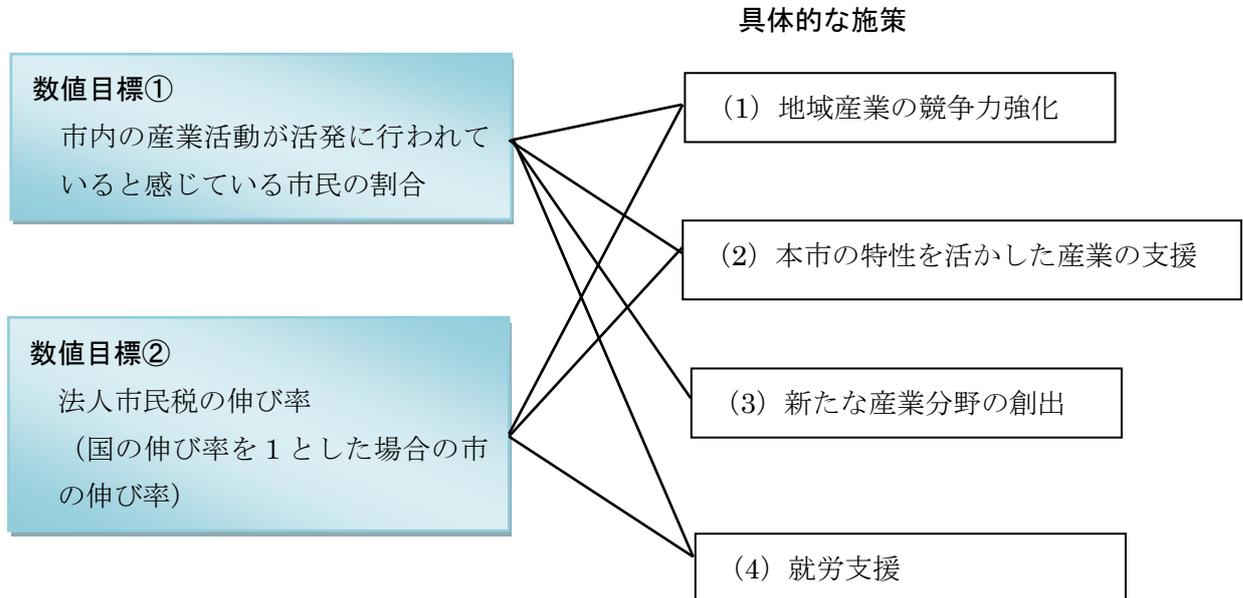
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
発達障害児支援事業グループ活動の利用者数	838人	1,130人	815人	648人	○ 学校復帰等のため、年度途中で支援を終了した者 ・・・11人(6月末で終了) 仮に11人が翌年3月まで継続した場合の延人数 ・・・846人 (1人が月2回参加) 11人×9ヶ月×2回=198人(減少分) 648人+198人=846人 これにより27年実績値より増加となることから、順調に推移しているとする。
	[実績値の出典] 委託先である島田療育センターはちおうじでの発達障害児支援室「からふる」で実施している集団療育グループの参加者延人数。				
母子・父子自立支援プログラム策定件数	53件	60件	53件	50件	△
	[実績値の内訳] 支援終了時就労:フルタイム16、パートタイム22、求職中9、求職なし3				
生活保護家庭における中学校卒業者の進学率	88.0%	95.0%	91.9%	94.4%	○
	[実績値の根拠] 厚生労働省実施「平成28年度における就労支援等の状況調査」のため、ケースワーカーが生活保護家庭における保護者より聞き取ったもので、中学3年生の子どもがいる家庭数を分母に、高校に進学した者がいる家庭数を分子として算出。 高校進学者数101/生活保護家庭数107				

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
妊娠届の提出時や予防接種の通知にチラシを同封するなどの取り組みを行うことで、保護者に対する周知が進み、登録者は増加傾向にある。	月齢に合った子育て支援情報や旬な子育てイベント情報を「プッシュ型サービス」で発信した。 また、新たに、お子さん一人ひとりの身長と体重を入力・管理できるグラフ「成長曲線」を導入し、機能の充実を図った。	今後も利用者の拡大に向け、若年層(子育て世帯)に向けた周知をさらに行っていく。 また、メールマガジンの周知は、母子保健部門や医療機関等、関係機関と連携し、効果的に進めていく。
大学や各イベントで周知を行い、会員の増加を図った。	長期休み中に子ども家庭支援センターが支援する子どもに向けた学習支援を行うボランティアを市内大学に募集した。 また、地域のNPOと連携して、「お父さんお帰らないさーパーティー」などのイベントで「子育て応援団Beeネット」に子育てボランティアとして登録するよう周知を図った。	大学及びファミリー・サポート・センター会員との連携を図り、会員数増加を図る。

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
28年度は、読み書き支援グループを新設したことにより、学習障害等を抱える児童に対して、言語聴覚士や作業療法士等の専門職による効果的な支援を開始することができた。 また、不登校児に対しては、ソーシャルスキルトレーニングを継続することにより、一部の児童が学校復帰(高尾山学園への転校などを含む。)をするなど、発達障害児支援事業の成果が認められた。 なお、実績値の減少は、この学校復帰を果たした不登校児への支援の終了等によるものである。	発達障害児支援室「からふる」において、ひらがな習得の基礎となる言葉の音韻への意識力・視覚認知力・上肢活動力を向上させることを目的とした、読み書きに困難のある就学児療育グループを新設した。	発達障害児支援室「からふる」において、日常生活動作・運動課題のスキルアップ課題を自分自身で設定・達成させ、自尊心を育むことを目的とした協調運動障害がある就学児を対象とした集団療育グループを新設する。
自立支援プログラム策定件数は微減であるが、母子父子自立支援員によるひとり親家庭への相談件数は増加している。	母子家庭等就業・自立支援センター事業のパソコン等講習会の開催回数を増やし、自立支援教育訓練給付金は2割から6割給付に、高等職業訓練促進給付金の支給期間を2年から3年にそれぞれ拡大するなど就業支援を強化した。 母子・父子自立支援員による相談事業や就業支援では、講習会での説明、広報・メールマガジンの配信やパンフレットの送付により、前掲を含めた就業支援に関わる情報提供をし、プログラム策定や相談に繋げる取組を行った。	平成29年7月より就業専門支援員を配置し、就業支援を強化する。 また、自立支援プログラムの策定にも積極的に取組み目標の達成に努める。
各種事業に取り組みを進め、27年度実績を上回る事ができた。	生活保護受給世帯及び児童扶養手当全部支給世帯の中学生を対象とした高校進学のための無料学習支援教室の教室数を6か所から8か所に拡大した。 また、子ども健全育成支援員(嘱託員4名)が、ひきこもりや不登校等の子どもに対し、家庭訪問や面談・電話相談等を通じて個々の状況に合わせた生活支援を他機関と連携・実施した。	前年度に引き続き、学習支援教室の会場を増設し、対象になる子どもの学ぶ機会を拡大している。

【政策軸② しごとづくり】

1. 数値目標と施策の位置づけ



2. 基本的方向

- 高度な技術力を有する製造業が集積する本市の特性を活かし、さらなる技術力の向上、販路開拓の支援を行うとともに、交通アクセス性を活かした企業誘致の促進、新規創業を促す内発型の支援策を両輪で展開し、活力ある産業都市を目指す。
- 都内随一の農業生産高、農地面積、農家戸数を誇る本市の特性を活かし、新たな担い手の発掘・育成を支援するとともに、6次産業化による持続可能な農業を目指す。
- 人口減少といった社会環境の変化や我が国の産業構造の変化を捉え、新たな産業分野の創出を支援するとともに、地域産業資源を活かしたブランド化、並びに地域課題解決型の小規模ビジネスの支援を展開する。
- 労働人口の減少による地域産業の活力減退を防ぐため、学園都市の特性を活かした、若者の中小企業への就労支援や、女性の再就職支援を推進するとともに、今後需要が拡大する介護市場における人材確保支援を展開する。

3. 政策軸2「しごとづくり」 平成28年度実績値の分析・評価

数値目標	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
市内の産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合	23.7%	35.2%	22.9%	26.7%	△
	[実績値の根拠] 市政世論調査問36「あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。」のうち、「どちらかといえばそう思う」以上の回答を集計。				
法人市民税の伸び率 (国の伸び率を1とした場合の市の伸び率)	0.95	1.05	1.01	1.07	○
	[実績値の出典] 市税白書				

《重要業績評価指標(KPI)》

(1) 地域産業の競争力強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
中小企業新商品開発認定制度における認定数(累積)	15件	50件	22件	30件	○
	[実績値の根拠] 26～28年度の八王子市中小企業新商品開発認定制度の認定商品数。				
企業立地支援制度により誘致した企業数(累積)	84件	119件	94件	101件	○
	[実績値の根拠] 企業立地支援条例の指定実績。				
中小製造業の市内事業所数の伸び率	市0.92 (全国0.96)	全国の伸び率を 0.02上回る	市0.99 (全国0.97)	—	—
	[実績値の出典] 経済産業省工業統計調査。				

28年度実績値に対する分析・評価	今後(29年度)の取組状況
27年度と比較し実績値は増加したが、市政世論調査で「あまりそう思えない」または「思えない」と答えた60歳以上の高齢者は、27年度に引き続き多く見られる。	本市の産業活動について、引き続き、高齢者に向けた分かりやすい情報発信を行っていく。
景気の回復基調が継続し、法人の収益が上昇したことによる。	企業立地支援条例を改正し、市内企業の行う事業施設の新設・拡張に対する支援を拡充する。

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
積極的な周知活動を行うことにより、27年度に比べ、認定商品数が増加し、目標値を達成するために必要な認定実績数を残すことができた。	8社8商品(27年度は7社7商品)を認定し、カタログ作成、庁舎内展示、産業交流展への出展などにより、周知を行った。	29年度は対象をこれまでの「物品」だけでなく、「役務」にも拡大して募集し商品認定する。その後、カタログ作成、庁舎内展示、産業交流展への出展などにより、商品の周知を図る。
指定件数が7件であり、27年度、26年度の指定件数が各10件であったことに比べて減少した。促進地域に新たな事業用地が無くなってきており、既存の業務用地を活用した立地が中心となっていることが、大幅な増加につながらなかったことの主因である。	東京都、UR都市機構、産業支援機関等への制度周知活動を実施した。このほか、市内企業749社への操業環境調査を実施し、その結果をもとに、市内企業の立地継続支援の充実のため、企業立地支援条例の改正を検討した。	企業立地支援条例を改正し、「市内企業立地継続奨励金」の創設により、市内企業向けの奨励金制度を再編した。
工業統計調査を基に、実績値を記載しているが、28年度分は現在未公表である。	市内中小企業の販路拡大について、出展補助(企業数29社3,670千円)や出展アドバイス(企業数8社255千円等)の支援を実施した。また、サイバーシルクロード八王子の事業への支援として、後継者塾の実施(全11回、参加者10名)、創業セミナーの実施(創業スクール全5日、参加者10名、ほか)、マネジメントカフェの開催(計2回、65名参加)した。このほか、八王子商工会議所中小企業相談所が行う「経営改善普及事業」の経費の一部についての補助を行った。	28年度事業を見直し、産学連携補助金と販路開拓支援補助金(展示会出展助成)については、小規模企業企業向けの制度を新たに創設した。

(2)本市の特性を活かした産業の支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
農業産出額	26億円	28億6880万円	25億7000万円	25億7,100万円	△
	[実績値の出典] 東京都農作物生産状況調査結果報告書				
道の駅八王子滝山の年間売上高	9.3億円	10億円	9.2億円	8.9億円	△
	[実績値の出典] 実績値の集計。				

(3)新たな産業分野の創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
新設事業所数の伸び率	市0.77 都0.84	都全体の伸び率 を0.07上回る	市2.96 都3.49	— —	—
	[実績値の出典] 経済センサス				
中小企業新商品開発認定制度における認定数(累積)【再掲】	15件	50件	22件	30件	○
	[実績値の出典] 26～28年度の八王子市中小企業新商品開発認定制度の認定商品数				

(4)就労支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
市のかかわる就職支援活動による採用者数	752人	952人	522人	566人	△
	[実績値の出典] 実績値の集計。				
はちおうじ就職ナビ掲載企業数	107件	150件	153件	175件	◎
	[実績値の根拠] はちおうじ就職ナビ登録IDの件数				

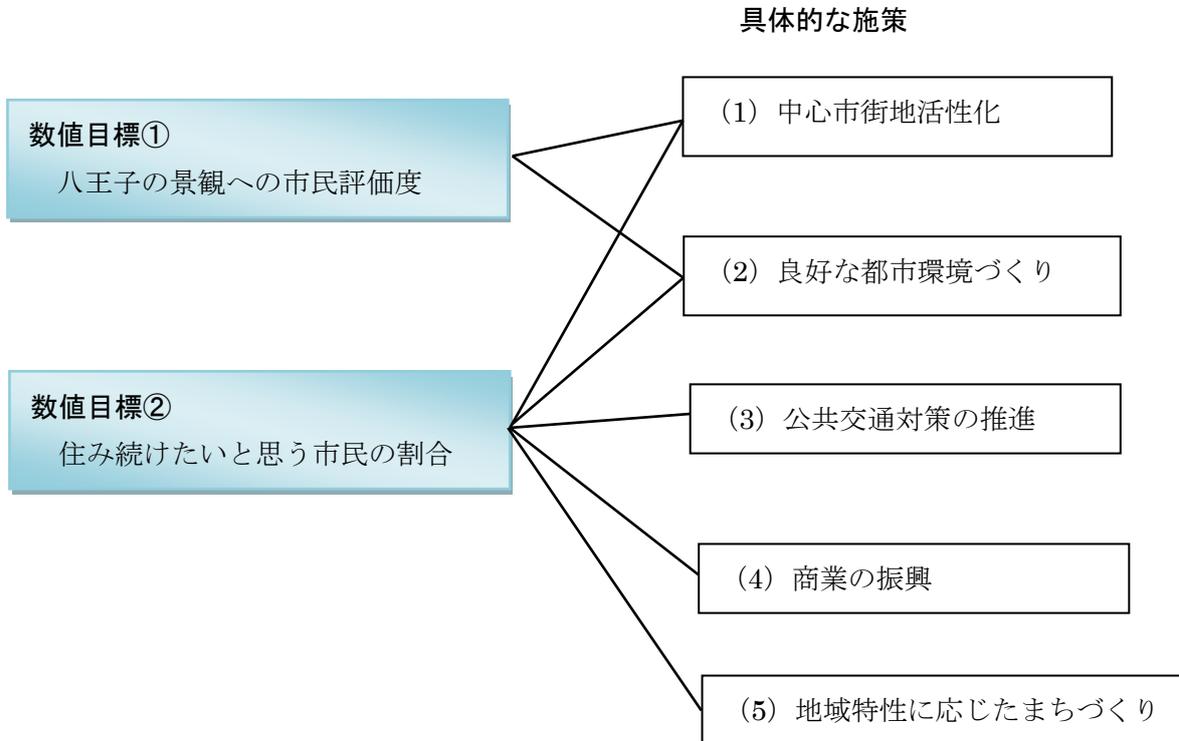
28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
農林水産関係市町村別統計によると、本市における耕地面積は年々減少しており、また、高齢化に伴う農家の担い手不足も影響して、農業算出額はほぼ変わらない傾向にある。	農地バンク制度等を実施した。 また、28年度は96経営体から10経営体増の106経営体の農業者が農業経営改善計画の認定(認定農業者)を受けた。 認定農業者制度説明会 1回実施 認定農業者個別相談会 3回実施	農地バンク制度や農地中間管理事業等の実施により、農地の流動化を積極的に進め、農業算出額の向上に努める。
開設後10年目を迎え、来場者数は毎年100万人前後を推移しており、28年度は882,971人と減少傾向にあるが、農産物売上は10億円弱で推移し、横ばいである。 なお、施設全体では物販の売上高が落ち込んでおり、これに伴い全体の売上高も減少している。	新聞折り込みや、8の日のイベントなど、年間を通じて地場農産物のPRをはじめ、地産地消の推進、農業振興の促進及び来場者に向けた賑わいの創出など積極的な活動を行った。	8の日のイベントにおける目玉商品の販売、新たな物産展の検討、イートインコーナーにおいて地場農産物を使用した月替わりメニューを販売することにより、施設としての魅力を高め、引き続き物販や来場者数の増加を図っていく。

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
28年度の活動調査は集計中である。	サイバーシルクロード八王子の事業により、八王子産農産物を使った商品開発をテーマとするクラウドファンディングや、農業をテーマとするシンポジウムの開催などの、農商工連携による新産業創出の取り組みを実施した。 また、新たな起業家の創出に向けて専門家による起業家への伴走支援を実施した。	引き続き、サイバーシルクロード八王子の事業により、新産業創出、起業創業の支援に取り組む。
(18・19頁参照)		

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
就職支援策に積極的に取り組み、実績値は、27年度と比較し増加している。しかし、27年度から実績値の算出方法を、市が直接的に行った就職支援に限定する形で見直したため、基準値より減少している。 なお、基準値を見直し後の方法により算出すると353人であり、順調に推移している。	就職支援として、市立小中学校における職業講演及び大学(キャリアセンター)と企業の交流等を実施した。 また、ハローワーク八王子等との共催による就職面接会や就職のためのセミナー等を実施した。 この他、生活困窮者への就労支援は、生活困窮者自立支援法施行2年目になり、対象者も増加したことから、就労支援員1名増員し、生活保護受給者への支援と一体的に充実を図った。 また、女性のための創業セミナーを2回開催した。	引き続き関係機関相互が連携して求職者の就職支援を行う。
各種取り組みが功を奏しており、掲載企業数は既に目標値を上回り、順調に伸びている。	企業単独ではサイトの作成が困難な企業に対し、掲載支援事業を実施した。また、面接会やセミナー等に参加した企業に対して「はちおうじ就職ナビ」を紹介し、新規開拓を図った。 また、「はちおうじ就職ナビに掲載されている中小企業に正規採用されたこと」が若者奨励金の受給要件の一つであることから、両事業の連携を図った。	引き続き未掲載企業に対し掲載依頼を行う。また、就職ナビの内容充実を図り、掲載意欲を高める。

【政策軸③ まちづくり】

1. 数値目標と施策の位置づけ



2. 基本的方向

- ・市域が広域であり様々な地域特性を持つ本市において、中心市街地の再生・魅力づくり、主要駅周辺のまちなぎわいの創出をはじめ、市街化調整区域を含めた適正な土地利用の規制・誘導などにより、魅力ある都市景観の創造・保全を目指す。
- ・快適な住環境の整備を推進するため、周辺的生活環境に悪影響を及ぼす空き家対策や、中心市街地及び商店街の活性化に資する空き店舗対策を、総合的かつ計画的に推進する。
- ・高齢化社会の推進に伴い、交通空白地域における生活交通の確保、市民ニーズを踏まえた地域交通事業を推進することで、安全安心のまちづくりを目指す。

3. 政策軸3「まちづくり」 平成28年度実績値の分析・評価

数値目標	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
八王子の景観への市民評価度	49.5%	56.0%	49.8%	52.3%	○ [実績値の根拠] 市政世論調査問35「あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思いますか。」のうち、「どちらかといえばそう思う」以上の回答を集計。
住み続けたいと思う市民の割合	88.6%	91.0%	88.5%	87.5%	△ [実績値の根拠] 市政世論調査問3「あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。」のうち、「当分は住み続けたい」以上の回答を集計。

《重要業績評価指標(KPI)》

(1) 中心市街地活性化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
中心市街地歩行量数	951,783人	999,373人	979,015人	960,367人	△ [実績値の根拠] 中心市街地歩行量調査(平成28年12月4日(日)・6日(火)実施)
中心市街地で開催される年間イベント数	38件	43件	45件	45件	◎ [実績値の出典] 実績値の集計。
まちゼミ参加者数	211人	317人	312人	349人	◎ [実績値の出典] 後援名義実績報告書(第7回まちゼミ)

(2) 良好な都市環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
空き店舗改修費補助金活用により出店した店舗数 (累計)	8件	23件	13件	18件	○ [実績値の根拠] 空き店舗改修補助金の実績(平成28年度末)

28年度実績値に対する分析・評価	今後(29年度)の取組状況
<p>景観に関する独自の取組みなどにより、自然、歴史や文化が活かされた景観と感ずる割合が年々増加しており、平成30年度の目標値である53%を達成できる見込みである。</p>	<p>八王子市屋外広告物条例と景観計画とを連携させ、本市独自の屋外広告物の取組みを推進することで良好な景観形成を図っていく。 市制100周年を迎えるにあたり、八王子景観100選を市民公募等により新たに選定する。</p>
<p>計画的なまちづくりにより暮らしやすい地域づくりを行うため、28年度には「低炭素都市づくり計画」、「自転車利用環境整備計画」「八王子市公共交通計画」を策定し、まちづくりの方針を示すとともに、市内全域の用途地域等の見直しを行った。 また、各計画等の策定にあたってはパブリックコメント手続きや素案説明会を実施するとともに、実施にあたっては広報・HPのほか、SNS(Facebook)での周知にも努めた。 しかしながら、これらは土地利用等に関する計画であり、本方針・計画を活用した官民双方のまちづくりが着実に展開され、市民が成果として実感するまでには時間がかかるため、今後も計画に基づき継続的に施策を展開していくことが必要である。</p>	<p>策定済みの各計画等に基づき、まちづくりに関わる各事業を実施していく。 周知等については、広報、HP、SNSを活用し、事業の計画段階から積極的な情報発信をしていく。</p>

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
<p>八王子駅周辺へのWi-Fi環境整備の取組みなどにより、休日の歩行量は27年度に対して増加したが、駅周辺も含め、全体的に歩行量が落ち込んだ。</p>	<p>八王子駅周辺の6ヶ所にWi-Fi環境を整備し、12月からサービスの提供を開始した。 また、まちなか交流・活動拠点の開設に向けて、施設整備工事及び運営団体の選定並びに施設の貸与を実施した。</p>	<p>民地を活用した滞留拠点の整備等に対する補助である魅力づくり支援補助金や空き店舗改修費補助金などを通して、中心市街地全体に歩行者が回遊するよう、支援を行っている。</p>
<p>オープンカフェの実施や新規イベントへの支援を行い、27年度のイベント開催数を維持できた。</p>	<p>10月～11月にかけて西放射線ユーロードにおける新たな道路空間の活用を目指したオープンカフェを実施した。</p>	<p>イベント開催の引き続きの支援を行っている。</p>
<p>開催費用等を含め自立的な運営で、周知方法等の見直しなどを行ったところ、参加者数が増加した。</p>	<p>中心市街地活性化促進事業として行ってきた「まちゼミ」事業について、参加店舗の増加や周知方法の見直しにより、参加店舗で構成する「まちゼミ推進委員会」での自主運営が可能となったことから、補助金を廃止した。</p>	<p>今後も引き続き、後援や周知活動の支援を行う。</p>

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
<p>市内の不動産屋等への周知活動を行うことにより、中心市街地内については、5件の出店につながる事ができた。</p>	<p>中心市街地地域の空き店舗(1階、地下、2階以上含む)に出店する事業者を対象に改修費の一部の補助を実施した。</p>	<p>甲州街道沿い出店者もしくは創業者への優遇措置を廃止するなど、制度の見直しを行い、募集を行っている。</p>

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
空き店舗改修費補助金活用により出店した店舗の 営業継続率	100%	100%	100%	94.4%	△
[実績値の根拠] 空き店舗改修補助金の実績及び報告(平成28年度末)					
市内の空き家率	10.3%	基準値(10.3%) 以下	10.3% (H25実績)	10.3% (H25実績)	—
[実績値の出典] 総務省住宅・土地統計調査 なお、同調査は5年ごとに行われており、次回は平成30年の実施であることから、平成28年度末の実績値は把握できない。					

(3) 公共交通対策の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
路線バス・はちバスの乗車数	14.1万人/日	14.7万人/日	15.5万人/日 (H26実績)	15.3万人/日 (H27実績)	◎
[実績値の内訳] 京王電鉄バス39,310人、西東京バス73,991人、京王バス南32,934人、神奈川中央交通6,282人(出典:統計八王子) はちバス487人(出典:はちバス利用状況集計表)					
地域公共交通活性化協議会の開催回数	2回	2回	3回	3回	◎
[実績値の詳細] 第28回(平成28年5月25日開催)・第29回(平成28年11月14日開催)・第30回(平成29年2月3日開催)					

(4) 商業の振興

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
「あきんど講座」実施回数	4回	6回	4回	4回	△
[実績値の出典] 実績値の集計。					
商店街が実施するイベント数	58回	60回	59回	58回	△
[実績値の出典] 実績値の集計。					

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
出店した店舗のうち、1店舗が閉店したことによる。	集客につながる店構え等のセミナーを紹介するなど、営業継続につながる支援を行った。	空き店舗改修費補助金への申請相談の際に、新規創業者については、創業相談へつなげる等行っている。
実績値は直近のデータとして、平成25年に実施した住宅・土地統計調査により算出しているため、次回平成30年に実施予定である住宅・土地統計調査まで、実績値の変動はない。	空き家の利活用の促進のため、空き家所有者に対し、改修費の一部を補助する空き家利活用促進整備補助事業を実施した。	空き家利活用促進整備補助金の対象工事に、新たに地域活性化施設としての改修工事を追加する。

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
既に平成31年度目標値を超えており、今後もより充実した公共交通となることを目指す。	八王子市公共交通計画を策定し、路線バス、地域循環バス「はちバス」等の施策の方向性を示している。そのなかで、わかりやすく利便性の高い公共交通となるように、八王子市バスマップを作成した。	29年度より、地域公共交通活性化協議会はちバス専門分科会を開催し、はちバスの利便性向上のための検討を行っている。八王子市バスマップを各事務所、各観光案内所にて配布を開始し、バスの利用促進を行っている。
公共交通計画の策定に伴い、計画をより充実した内容にするため、開催回数を増やした。	3回(5月、11月、2月)の開催し、八王子市公共交通計画策定に向けて、検討を行った。	29年度は、2回の開催を予定している。(10月、2月)

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
商店会や同業者組合は定休日が同一でないことから講座の開催ができず、個人事業者向けの講座を4回開催するにとどまった。	店主を対象に、集客や商品管理・販売促進・売上分析、また、経営に関するテーマについて、期間・会場等を自由に設定できる勉強会であり、商売に関する悩みを専門家のアドバイスにより解決する。 商店街の研修会 2回 個店の個別相談 2回	曜日や時間を工夫して商店会単位の講座の開催を増やしていく。
予定していた2件の商店街のイベントが資金不足で中止となり、目標を達成することができなかった。 なお、商店街と町会との共同開催のイベントを2件実施することができ、更なる商店街の賑わいに繋げることができた。	市内商店街等が中小商業の経営の安定と発展及び地域経済の活性化に寄与することを目的に「はばたけ商店街補助金」を交付した。 イベント事業 31商店会 1商店会連合会 商工会議所 活性化事業 6商店会	まちの活性化は商店会だけでなく町会の力も必要であるが、要綱上その場合は補助ができないため、どのような形のイベント実施が地域にとってよいのか、あり方を検討する。

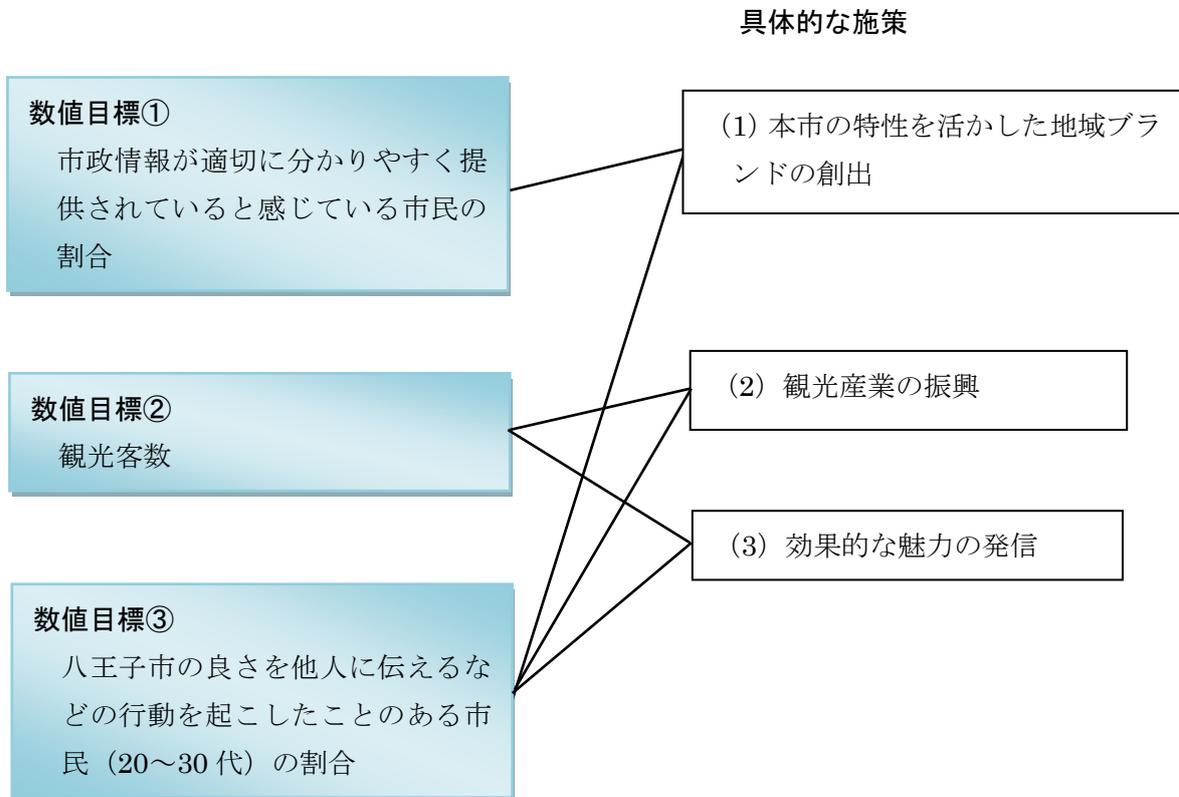
(5) 地域特性に応じたまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
こども科学館と大横保健福祉センターの連携事業 延べ回数	—	3回	2回	2回	○
	[実績値の詳細] 平成28年8月12日・15日実施「親子で知ろうからだ測定会」				
こども科学館の利用者数	85,181人	100,000人	82,180人	57,219人	○ 半年間閉館していたことを踏まえ、順調に推移しているとする。
	[実績値の出典] 実績値の集計。				
大横保健福祉センター利用者数	47,727人	94,600人	77,646人	92,213人	○
	[実績値の出典] 大横保健福祉センターにおける施設利用及び会議室利用者・生きがいつくりの教室参加者・歩行用プール利用者等の合計。				

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
隣接する立地条件を活かし2所管(こども科学館・大横保健福祉センター)が連携して、「親子の体力測定会」をこども科学館で実施し、親子(家族)に対する健康への普及啓発及び共通体験の場づくりを行った。28年度中に、こども科学館が改修工事に入り、27年度と同様の開催回数に留まった。	夏休みのイベントカレンダー、広報はちおうじ、こども科学館作成のチラシに掲載し、配布した。子ども78名、大人105名、計183名が参加した。	夏休み期間などに合わせてイベントを企画して参加者を募るとともに、今後も若い世代への健康づくりのきっかけや、親子の共通体験の場となるよう工夫して取り組む。
市制100周年記念事業・こども科学館改修工事実施に伴い、平成28年10月1日から平成29年7月21日までの全館休館したため、利用者数が減少した。	施設・設備の大規模改修工事、展示物製作・設置業務委託、プラネタリウム施設改修工事、周辺施設の一体整備工事を施工した。また、休館期間中は移動式プラネタリウムで小・中学校へ出張し、学習投影を行った。このほか、児童館へ出張し工作教室を開催した。	平成29年7月22日にリニューアルオープンを実施した。8月から1回土曜日夕方に大人向けプラネタリウム番組上映「トワイライトプラネタリウム」を実施予定である。また、平成29年11月26日に市制100周年記念事業「宇宙飛行士講演会」を実施する。
ほぼ全ての利用項目において27年度実績を上回っており、館の事業の周知が図られたこと、また新規事業における利用者が上乘せされた点を踏まえ、着実な成果を得た。	生きがいづくりの教室(10教室延148回)、初級手話講習会(34回)などを開催した。また、まちなか避暑地の拡大(ボランティアによるイベント実施等を含む)及び大横保健福祉センターまつり(参加者1,139人)を実施した。このほか、高齢者自主サークルの形成促進、入居団体との避難訓練実施、各種事業における協働体制の確立を図った。	取り組みについて、さらに効率化を伴いつつ拡充を図っていく。

【政策軸④ 本市の魅力の発信】

1. 数値目標と施策の位置づけ



2. 基本的方向

- ・本市には歴史・文化や自然、アウトドアスポーツ、食など、様々な地域資源が存在する。そこで、本市の特性や豊かな地域資源を活かしたブランディングを行うことで、まちの魅力を高める。
- ・観光地としての魅力を高め何度でも訪れたいまちを目指すとともに、新たな観光資源の発掘・活用をすすめ、観光産業を振興する。
- ・時期を捉え、まちの魅力を効果的に発信することで、地域への誇り・愛着を醸成するとともに交流人口の増加につなげる。

3. 政策軸4「本市の魅力の発信」 平成28年度実績値の分析・評価

数値目標	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
市政情報が適切に分かりやすく提供されていると感じている市民の割合	35.6%	51.0%	41.5%	43.4%	○
[実績値の根拠] 市政世論調査問6「あなたは、市政情報が適切にわかりやすく提供されていると思いますか。」において、「どちらかといえばわかりやすい」以上の回答を集計。					
観光客数	714万人	824万人	712万人 (H26実績)	762万人 (H27実績)	○
[実績値の出典] 観光統計(観光客の推計)					
八王子市の良さを他人に伝えるなどの行動を起こしたことがある市民(20～30代)の割合	20代:61.9% 30代:65.2%	20代:70% 30代:74%	20代:53.1% 30代:63.9%	20代:49.0% 30代:50.2%	△
[実績値の根拠] 市政世論調査問2「あなたは、この1年間のうち、市外の人に八王子の良さを伝える次のような行動をしたことがありますか。」において、20～30代の回答者のうち、「特にしたことはない」及び「無回答」の回答者数を100%から減じた割合によって算出。					

《重要業績評価指標(KPI)》

(1)本市の特性を活かした地域ブランドの創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
文化財関連施設の利用者数	77,798人	82,000人	84,765人	93,661 人/年	◎
[実績値の出典] はちおうじの教育統計					
水辺に親しめる場所の数	132か所	139か所	136か所	139か所	◎
[実績値の出典] 実績値の集計。					

28年度実績値に対する分析・評価	今後(29年度)の取組状況
<p>職員の広報活動に対する意識を高め、広報技術を向上させることを目的に、「広報活動ガイドライン」を策定した。広報紙を始めとする情報発信において、文章表現やレイアウトなどの改善を続けてきたことが実績値の向上につながった。</p>	<p>28年度に策定した広報活動ガイドラインをもとに、八王子市が目指す広報活動の目標や手法について、広報連絡責任者を対象に研修を実施するなど、職員の情報発信力の向上を図っている。</p>
<p>27年に高尾山口駅前が整備され、新たな観光施設が開設されたことにより、マスコミなどにも多くとりあげられたことが、観光客の増加につながった。</p>	<p>平成29年4月6日に国史跡・滝山城跡が続日本100名城に選定された。 八王子城に続き市内に100名城が2つある市という都内唯一の特性を活かし、高尾山以外の観光客についても増加を図っていく。</p>
<p>八王子で暮らす魅力を発信するシティプロモーションサイトの公開やフェイスブックの運営、動画の制作など、各種魅力発信ツールを制作する取組みを進めた。 サイト・動画は新聞・CATVなど複数のメディアに取り上げられ、フェイスブックは1年で約900の「いいね！」を獲得した。 なお、数値の減少については、28年度調査より、推奨行動を取った市民の割合を聞くための質問文に「この1年間のうち」という文言を追加したため、1年より前に推奨行動をとった市民の割合が実績値に反映されなくなったことが影響している。</p>	<p>これまでに制作した魅力発信ツールを活用しつつ、新たな取組みとして、市制100周年を記念した「100年婚姻届」の制作・販売を通じ、若い世代の愛着醸成を図る。</p>

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
<p>八王子城跡や郷土資料館において、各種取組みを進めることにより、利用者数を2年連続で増加させることができた。</p>	<p>国史跡八王子城跡管理棟内のトイレを25年ぶりに全面的に改修を行い、利用者へのサービスの向上に寄与したほか、管理棟の外壁及びドア、窓等も改修を行い、外観イメージの向上と利用者およびガイドボランティアの利便性の向上に寄与した。 絹の道資料館においては、休憩スペースの照明器具のLED化工事を行い、利用者の利便性の向上を図った。 郷土資料館においては、こども科学館と連携した企画展の実施や展示解説の機会を増やすとともに、前年までと違った講座・体験学習を開催するなど、市民に郷土史への関心を深めてもらうため、さまざまな創意工夫を図った。</p>	<p>八王子城跡では、「文化財見て歩き」や「子ども手作り甲冑教室」といった親子で歴史を学ぶイベントを引き続き実施する。 また、郷土資料館では市民の学習機会の提供のため、引き続き、特別展・企画展・講座・体験学習を開催する。</p>
<p>親水整備に取り組んだことにより、水路、河川ともに箇所数が増加した。</p>	<p>身近な水辺の保全のために水辺を活用して行う市民活動「水辺の水護り制度」の登録団体拡充のため、占用許可相談、要望相談時に「水辺の水護り制度」の説明をすることにより、27年度より登録団体で2団体、30人の水辺を保全活動をする人を増加することができた。</p>	<p>東京都において、南浅川(東浅川町ほか)にて親水整備を実施する。</p>

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
八王子産の農産物を常に意識して購入している市民の割合	16.7%	46.0%	15.7%	15.3%	△
市政世論調査問3「あなたは、市内の農産物(野菜・果物・花など)を意識して購入(消費)していますか。」において、「購入したことがない」の回答者数を100%から減じた割合のうち、「いつも意識している」の回答を集計。					

(2) 観光産業の振興

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
観光客数【再掲】	714万人	824万人	712万人 (H26実績)	762万人 (H27実績)	○
[実績値の出典] 観光統計(観光客の推計)					
中心市街地で開催される年間イベント数【再掲】	38件	43件	45件	45件	◎
[実績値の出典] 実績値の集計。					

(3) 効果的な魅力の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 31年度	実績値		達成状況 達成済み ◎ 順調に推移 ○ 遅れている △
			27年度 (H28.3末)	28年度 (H29.3末)	
住み続けたいと思う市民の割合【再掲】	88.6%	91.0%	88.5%	87.5%	△
[実績値の根拠] 市政世論調査問3「あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。」のうち、「当分は住み続けたい」以上の回答を集計。					
MICE 誘致成功件数(推進組織がプロデュースしたもの)	—	7件	—	0件	○
[実績値の詳細] 28年度は、MICEの推進組織(現在の八王子観光コンベンション協会)の設立に向け、関係機関と調整した期間である。八王子MICE都市推進センター準備室において、29年度以降のMICE誘致の営業活動を本格的に実施したばかりで実績はない。					
					29年4月新組織発足により、実績に関わらず順調に推移しているものとする。

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
各種取組みを行っているにもかかわらず、実績値が基準値を下回っていることを踏まえ、更なる八王子産農産物のPR活動に努めていく必要がある。	新聞折り込みや、8の日のイベントなどを実施した。道の駅滝山においては年間を通じて、地場農産物のPRをはじめ、地産地消の推進、農業振興の促進及び来場者に向けた販わいの創出など積極的な活動を行った。	引き続き道の駅八王子滝山の出張販売を行うほか、農協と連携し、市内各地で地場産野菜の普及に努める。

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
(32・33頁参照)		
(24・25頁参照)		

28年度実績値に対する分析・評価	分析・評価の根拠となる 28年度事業(取り組み)・成果 【新規、レベルアップを主に記載】	今後(29年度)の取組状況
(24・25頁参照)		
28年度は、29年度以降のMICE誘致活動の足がかりを形成する期間であった。	MICE誘致に向け、事業者向けレクチャー等を実施したほか、プロモーション事業として、ホームページをはじめ、MICEの営業冊子である「八王子観光コンベンションガイドブック」を制作した。また、6月末より民間企業からの出向者を配置し、大学コンソーシアムに加入している25大学等に対して、本格的なMICE誘致活動を開始した。さらに、八王子観光協会、八王子商工会議所及び市で構成する観光振興及びMICE推進に係る組織のあり方検討会議で、一般観光部門とコンベンション部門の両機能を統合した、観光事業及びMICE誘致事業を展開する新組織を立ち上げることを確認し、29年4月から(公社)八王子観光コンベンション協会が発足した。	市制100周年記念 大相撲八王子場所、IFSCボルダリングワールドカップ八王子2017、経営行動研究学会第27回全国大会ならびに第16回日本・モンゴル、生活文化創造都市フォーラム等を通して、MICE関連事業者とのネットワークの構築や営業活動を行い、今後のMICE誘致に繋げていく。また、都の多摩ビジネスイベント重点支援エリアの指定を受け、補助金を活用し、実施計画を着実に実行していく。

八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 28 年度の実績 総括表

政策軸	項目	項目数	内 訳		
			順調に推移しているもの	遅れているもの	現時点で実績値を把握できないもの
①ひとづくり	数値目標	3	2	1	0
	KPI	18	12	6	0
②しごとづくり	数値目標	2	1	1	0
	KPI	9	4	3	2
③まちづくり	数値目標	2	1	1	0
	KPI	13	8	4	1
④本市の魅力の発信	数値目標	3	2	1	0
	KPI	7	5	2	0
合 計	数値目標	10	6	4	0
	KPI	47	29	15	3

平成 29 年 9 月

発行／八王子市

編集／都市戦略部 都市戦略課

〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号

直通：042-620-7335 FAX：042-627-5939

E-mail：b400100@city.hachioji.tokyo.jp